

# 自閉症カンファレンス NIPPON 2015

8月21、22日に早稲田大学で行われた自閉症カンファレンスに参加させて頂きました。

1日目のカンファレンスについてCブロック吉井が報告致します。私は、「大人になった自閉症～TEACCHの成果（ローラ・クリンガー先生）」「基礎からの構造化（安部陽子先生）」「基礎からの評価と自立課題（中山清司先生）」のプログラムに参加しました。その中で、今回身を持って構造化の大切さを経験したことから、様々な講義でお話があった「構造化」という部分に焦点を当てて、ご報告させて頂きます。



私は、今回、東京へ行った際、右も左もわからず、電車に乗るのも一苦労でした。しかし、そんな時、街の中には、いたるところで、構造化がなされていました。

例えば、「地下鉄、電車の路線図の色」「方向案内板」「イラストを使用した目印」など、あらゆる場面で私たちの生活でも構造化がなされており、慣れていない人でも安心して生活できる環境となっていました。

おかげで、私も安心して過ごすことができました。

このことは、ASDの方に置き換えても同じであると感じました。

講義の中でお話にあった「その人に合わせて、今、何をするか、次に何をするか？予測可能なように世の中をわかりやすくすること」ということが、より良い生活をするためには大切だということを講義、実体験の中で改めて学ぶことができました。



また、参加した講義の中で、以下の言葉に特に強く惹かれました。

「強みを生かし、弱みを補う」

「私たちの世界にASDの方を招待するのではなく、私たちがASDの方の世界に入る」

この言葉を今後、ASDの方と関わる上で大切にしていきたいと思います。

2日目のカンファレンスについて生活介護の京谷が報告致します。私はメインプログラムである「自閉症の人へのトータルサポート（ローラ・クリンガー先生）」「自閉症の子どもへのまなざし（佐々木正美先生）」「自閉症の人の支援でもっとも大切なこと（ゲーリー・メジボフ先生）」に参加しました。

メジボフ先生のお話にあった「コアバリュー」。それは「支援者がASDの方々を支援する上で基盤となるもの。1人ひとりが日常の活動の中で、どう振る舞うかの基礎となり得るもの」と教わりました。

私達が日々の中で迷い・立ち止まったとき、そこに立ち返ることができれば、本質を見失うことなく、前に進むことを助けてくれるものだと感じました。また、この道しるべがあることで、チームが同じ方向を向いてぶれずに1歩1歩進んでいけるのだとも思いました。

佐々木正美先生のお話の中にあつた「TEACCHの9つの理念・哲学」

- ・ 十分に観察して特性をよく理解する
- ・ 親は協働の療育者である
- ・ 自閉症のまま、幸福に生きる
- ・ 個別的な配慮を原則とする
- ・ 構造化された指導や支援を重視する
- ・ 氷山モデル（表面的に表れた問題の水面下に沈む問題を知る）
- ・ 弱点を受け入れ、長所を伸ばす
- ・ ジェネラリスト・モデル（スペシャリストを超えたジェネラリストを目指す）
- ・ 生涯にわたる支援をする



ゆいにも「支援の心得・支援者としてのスタンス」があります。とても大切なものです。「コアバリュー」「9つの理念・哲学」そして「支援の心得・スタンス」を大事に、謙虚に努めていきたいと思ひます。